

県連提出議題

I 競技会

(1) プロジェクト発表

1〇プロジェクト発表会審査基準について【群馬県連盟】

(提案理由)

プロジェクト発表会実施基準の(9)審査基準と配点について、発表内容の審査項目3「持続的・安定的な地域環境や地域創造に配慮した内容となっているか」という基準では「地域」のとり方により、審査があいまいになる可能性があります。具体的には地域の設定が「わが国」「世界」になったときに、審査員によっては、地域として取り扱えないとなると思います。よって、審査基準の「地域」という言葉は削除してはいかがでしょうか。

(回答)

審査基準の「地域」は、特に限定していませんので全国的・国際的な地域活動であっても問題ありません。審査があいまいにならないように、なぜ全国的・国際的な地域で活動をしているのか、その理由を事前提出書類や発表内容で明確にしていくよう心掛けてください。

また、審査基準の「地域」という言葉は、学習指導要領の教科「農業」の目標に「地域農業や地域社会の発展に貢献し、持続可能な社会の形成と発展に寄与する人材の育成をねらいとしている」と明記されているため、削除することはできないと考えます。

2〇全国大会プロジェクト発表会の発表規定について【岐阜県連盟】

(提案理由)

発表規定(特に違反規定など)を1冊の冊子にまとめ、全国の農業高校に配布できないか。そうすることによって競技既定の周知徹底が図れるだけでなく、競技としての透明性も高まるのではないか。

(回答)

『全国大会は、「全国大会実施基準」と全国大会開催事務局が作成する「プロジェクト発表会実施要項」に沿って実施され、それに掲載されていない内容は禁止とする。』と全国大会実施基準に明記されています。このルールに沿って発表会に臨んでくだされば、あえて違反規定をつくる必要はないかと考えます

3〇全国大会プロジェクト発表会の審査結果の一部公開について【岐阜県連盟】

(提案理由)

規定違反などの減点があった場合は公表してほしい。現状一切公表がないため、どのような理由で入賞したのかしなかったのが不透明である。入賞できなかった理由が減点によるものなのか内容が不十分だったのかなど明確になることで今後の資質向上に活かせるだけでなく、競技性の観点からもわかりやすく、参加した生徒に対しても納得のいく説明ができるのではないか。

(回答)

プロジェクトは競技会ではなく発表会です。このため、発表会の観点から審査の結果は公表しておりません。ただし、参加校には公開可能な範囲で成績を送付しております。

最優秀賞、優秀賞を複数の参加者が受賞し、多くの生徒が喜びや達成感を感じて励みにしていると考えています。各校での農業クラブ活動を励ますためにも、現状の成績発表方法にご理解ください。

4〇各種発表大会の新基準における審査について【愛媛県連盟】

(提案理由)

本県は第2回各種発表県大会を実施している。その関係で、平成27年度の第2回県大会を新基準にて実施する。実施した校内予選等で次のような意見が出たので、回答していただきたく、提案した。

今回より、事前審査資料の表紙の表記等に絵や写真を使用しないなどの表記が加わった。違反した場合、減点対象にない違反についてどのように対処するのか協議願いたい。

(回答)

禁止事項を行ったことを踏まえた評価を審査員で協議して頂き、統一した内容で審査をしてください。また、実施基準は、基準が守られることを前提にしてつくられています。違反した場合どうするのかではなく、まずは違反行為が出ないように各県連レベルで生徒への指導の徹底をよろしくお願いします。

5〇プロジェクト発表会の審査について【熊本県連盟】

(提案理由)

審査項目で「授業での学習を踏まえ計画的に研究が進められているか」とあるが、部活動としての活動、先輩からの継続研究、自学科に研究内容の授業が無い場合、発表者が該当授業を受けていない場合、1年次では該当する授業がない等の場合は、授業を受けずに研究をスタート(開始)することが予測される。こういった状況をどのように判断するのか。また、授業を踏まえた計画なのかどうかを証明(確認)する方法はどのようなのか。

(回答)

専門分会活動は、学習指導要領「課題研究」や「総合実習」に位置付けられていますので、エントリーシートの関係科目に「課題研究」あるいは「総合実習」と記入していただければと思います。

また、自学科に研究内容の授業がない場合等は、履修していない科目(教育課程表に掲載されていない科目)であっても関係科目に記入していただいてもかまいません。ただし、プロジェクトの内容と関係している教科「農業」の科目名を記入してください。

授業を踏まえた計画なのかどうかを証明(確認)する方法は、発表内容で判断していただきます。

(2) プロジェクト発表・意見発表

1〇プロジェクト発表、意見発表の審査基準について【北北海道連盟】

(提案理由)

プロジェクト発表・意見発表における事前資料の審査項目1「発表原稿は誤字脱字なく、書かれているか」について、審査員の審査によるものではなく、日連または大会事務局の機械的な審査(減点)としてはどうか。審査員による誤字脱字のチェックがどのように5点の配点に反映させられるかが不明瞭で、審査員も困惑する部分ではないか。機械的に日連または運営担当校が1箇所につき〇点のように減点を行う方法で対応した方が、改定主旨である提出原稿の精査と審査員への負担回避、発表内容への傾斜審査を実現できるのではないのでしょうか。

(回答)

以前より発表原稿の誤字脱字の多さについては問題視されていました。誤字脱字があることにより、発表内容が正確に伝わらないなどの問題も考えられます。こうした点から、原稿の誤字脱字については審査員で協議のうえ、判断して頂きます。

機械的な審査(減点)については、様々なケースが想定されるため、慎重に検討する必要があると考えて

おります。

現在の審査基準は、審査員が多様な内容の発表原稿に教育的な配慮をしながら個別に対応できるため、審査員は運用しやすいと考えております。審査はプレイスナンバー方式で順位が決定されるため、各審査員は基準内で差がつくように審査をしていただければ結構です。

2〇意見・プロジェクト発表会のDVD作成について【岐阜県連盟】

(提案理由)

現在、全国大会に出場した意見発表・プロジェクト発表は、大会式典で最優秀賞を受賞した発表のみDVDで見ることができるが、全体のレベルアップのためにもすべての発表が収録されたDVDを作成し販売してほしい。

(回答)

各発表会場に専門業者を入れなければならなくなり、費用もかさみます。また、その後の作業も増加します。各ブロック連盟代表や県連の代表が参加されておりますので映像を依頼したり、出場校へ問い合わせをしたりして情報を集めるなど、先生方のネットワークを広げ対応して頂きたいと思います。

3〇プロジェクト発表・意見発表について【岐阜県連盟】

(提案理由)

審査基準の事前資料の審査項目1は必要ないと思われます。誤字脱字の減点とありますが、具体的にどのような減点方式なのか教えて下さい。誤字脱字を探すことに神経を使うよりも、2の項目のみにして、配点も10点にしたほうがよいのではないのでしょうか。

(回答)

以前より発表原稿の誤字脱字の多さについては問題視されてきました。誤字脱字があることにより、発表内容が正確に伝わらないなどの問題も考えられます。こうした点から、原稿の誤字脱字については審査員で協議のうえ、判断して頂きます。

現在の審査基準は、審査員が多様な内容の発表原稿に教育的な配慮をしながら個別に対応できるため、審査員は運用しやすいと考えております。審査はプレイスナンバー方式で順位が決定されるため、各審査員は基準内で差がつくように審査をしていただければ結構です。審査項目の配点については、文科省など多方面の方の意見を聞き、総合的に判断し決定しましたので、ご理解ください。

(3) 平板測量競技会

1〇平板測量競技会の実施について【愛媛県連盟】

(提案理由)

平板による競技を改め、トータルステーション、またはセオドライトによる閉合多角測量競技会の実施をお願いしたい。平板測量は、平成23年3月末に公共測量作業規定が改正された。一般社会では使われなくなった測量技術であり、「職業技能を高める」との目的は、すでにその使命を終えていると考える。また、器具の製造中止で在庫のみしかないものもあり、近い将来使用器具の準備も難しくなる。

(回答)

平成28年度より新基準に変更する際、平板測量競技について提案のような質問がありました。協議した結果、現状の方向で実施することが決まりました。農業クラブ活動は、学科やコース、系列にこだわらない幅広い選択の中で実施されています。そこで専門性を高める競技にするのではなく、他の競技と同じように幅広く出場できる機会を与える競技にするべきであると考えていますので、現状どおりで実施していきたいと考えています。

使用器具については、製造中止の器具もありますが復刻されている器具もあります。また、都道府県連盟に情報提供を依頼することで購入先が入手できます。また日連も情報を提供したいと考えています。情報を共有しながら、これからも競技が実施できる方向でお願いいたします。今回の質問については、今後も都道府県連盟の状況を確認しながら対応させていただきます。

2〇競技中の写真撮影について【鹿児島県連盟】

（提案理由）

全国大会の競技中の写真撮影を引率者に許可して欲しい。携帯電話の使用禁止はやむを得ないが、大会事務局で引率者の競技中の写真撮影を認める方向で対応してほしい。

（回 答）

引率の先生方が会場を自由に歩き回り写真撮影することは、競技者が集中力を欠いたり、審査員が競技運営上支障をきたしたりする原因になると考えます。今までと同じように、競技中の撮影は禁止といたします。

（４）農業鑑定競技会

1〇農業鑑定競技会について【岐阜県連盟】

（提案理由）

出題の範囲として農業経済や農業経営の項目が追加されていますが、どのような出題形式になるのか教えて下さい。変更後の全国大会の開催県が有利になってしまうため、ある程度問題の出題傾向を統一したほうが良いと思います。

（回 答）

農業鑑定競技を通して、クラブ員が学習項目に関する知識とそれを応用できる力を身に着けることも必要なので、傾向の統一は難しいかと思います。全国大会の問題については、各年度の担当県と日連とで確認・調整しながら作成していきますので「全国大会の開催県が有利になる」ことがないよう（他の出題分野も同様）配慮をしていきたいと思っています。

（５）クラブ員代表者会議

1〇東北連盟が担当するクラブ員代表者会議で担当する事例発表のテーマについて【青森県連盟】

（提案理由）

青森県連盟では、クラブ員代表者会議の担当校を決定するため県大会で、「クラブ活動紹介発表会」を実施している。また、東北大会でも県大会と同様に「クラブ活動紹介発表」を実施し、全国大会の事例発表校を決定している。そのため、東北連盟が全国大会で担当する事例発表のテーマについては、競いやすいテーマを選んでほしい。適さないテーマとしては、「連盟運営（日連・ブロック連盟・県連）に関する問題」は、競いににくい内容であり、テーマを決定する際に、除外してほしい。

（回 答）

クラブ員代表者会議の目的は、クラブ活動の事例をもとにした情報交換と連盟運営に関する意見交換を行い、クラブ員の資質の向上とクラブ活動の発展を図る（全国大会実施基準参照）となっています。そのため、競技を目的としていません。また、目的の中には、連盟運営に関する意見交換を行いと明記されております。さらに、学校農業クラブ活動3大目標の内、社会性・指導性を育てる上で重要な内容となっていますので「連盟運営（日連・ブロック連盟・県連盟）に関する問題」について除外することはできません。

Ⅱ 全国大会

1 ○秋季代議員会での顧問教師会の開催について【新潟県連盟】

(提案理由)

春季代議員会では代議員とは別に顧問教師会が開催され、質問・意見等協議の場が設定されており、都道府県連盟で集約した意見を発言することができるが、秋季代議員会では代議員のみに発言権があり、顧問教師には全くその機会がない。(議決権は代議員のみで構わない)

時間の制約も理解できるが、秋季代議員会で決まった事項を都道府県連盟会議で報告するため、詳細を確認したいので、顧問教師会を別開催し質疑応答の時間を設けてほしい。

(回 答)

指導教師会は、全国大会の運営や会場の都合上、開催が難しいのが現状です。秋季代議員会後にご質問がありましたら、日連事務局までお問い合わせください。

2 ○全国大会の主催者負担（ブロック連盟・開催県連盟分）を全クラブ員からの均等負担に変更することについて【新潟県連盟】

(提案理由)

全国大会を開催するにあたって、各開催ブロック連盟で単位クラブ・クラブ員より負担金を徴収して運営を行っている状況がある。このことに関して、当該年度に在籍しているクラブ員のみが多く負担することは問題があり、運営経費削減と合わせて全国のクラブ員から一律に負担金を徴収することにより、持続可能な全国大会が開催できるのではないかと昨年度も提案を行った。その回答として「第65回日本学校農業クラブ全国大会平成26年度沖縄大会」冊子に書かれている「開催準備要項」を確認するよう指示があった。その要項の「5 大会予算 ② 日連からの大会費」の中に、今後多方面からの検討を重ねるとの記述があり、また大阪大会での参加費値上げの理由の説明として、会費の値上げには3年以上の検討が必要であり参加費の増額により対応したと回答があったと記憶している。そこで、その後に検討された内容と持続可能な全国大会の開催のため上記提案以外に代案があるのであれば日連はどのような方針があるのか説明いただきたい。本県としては昨年同様上記内容について提案する。

(回 答)

日連の事業は、現在の予算で問題なく実施できているため、年会費の増額は今のところ予定していません。現在、お示しできる代案はありませんので、ご意見をいただきながら検討を重ねていきます。

3 ○全国大会のメインスポンサーについて【岐阜県連盟】

(提案理由)

大阪大会から参加料が値上げされるなど、全国大会の実施に伴う経費の問題が年々深刻になっている。そこで、いずれは首都圏固定で全国大会を開催し、サントリーやカゴメ、JAなど食品に関する企業を中心に、全国大会のメインスポンサーを探して資金援助をしてもらうことを検討すべきではないか。全国で持ち回って開催する良さもあるが、首都圏に固定できればメディアの取材も増え、何より会場確保や宿泊施設などあらゆる面において準備が円滑になるのではないか。

(回 答)

全国大会の協賛金活動については、全国大会事務局並びに農業クラブ事務局が年間を通じて実施しています。このため、農業クラブの認知度は年々高まっており、各企業から多様な形でご支援とご協力をいただいています。

全国大会の開催については開催県が決められており、どの県においても開催できるよう「農業クラブ全国

大会「開催準備要項」(平成26年度沖縄大会誌)が示されましたので、ご理解とご協力をお願いいたします。

4○全国大会各種発表会等の審査について【愛媛県連盟】

(提案理由)

平成28年度より、各種発表等の実施基準が改定され、大阪大会からの運用に期待が高まっている。特に審査基準と運用については日連のリーダーシップにより確固たるものにしなければ、クラブ員、顧問の意欲低下になりかねない。審査の透明性を高め、情報公開を積極的に図る方策を協議願いたい。例えば、①審査員の審査用紙または審査会資料を公開する。②各発表・競技に対するアドバイス(改善点)を個別に受けるが考えられる。情報公開が言われている時代でもあり、全体のレベル向上にもつながると思うので検討願いたい。

(回答)

全国大会終了後、プロジェクト発表会と意見発表会の参加校には成績を送付し、平板測量競技会と農業鑑定競技会については得点分布表を各都道府県連盟に送付して情報公開を行っています。また、全国大会後に発行される大会報告書には、各種発表会並びに競技会の審査員による指導講評が載せられているため、こちらを参考にして指導にご活用ください。

5○各種大会での発表内容における審査の公表について【鹿児島県連盟】

(提案理由)

結果発表後に、発表者の内容の良い点、良くない点を知ることで次の機会につなげることができ、農業クラブ活動のさらなる活性化が図れると思うから。

(回答)

「全国大会各種発表会等の審査について【愛媛県連盟】」の回答をご参考願います。

Ⅲ 課題別委員会

(1) 環境調査委員会

1 ○環境調査について【岐阜県連盟】

(提案理由)

近年、調査対象は春～夏に活動するものが多かったが、その時期は各種競技会などがあり、単位クラブの活動も活発に行われている時期である。9月～1月に調査できる対象にすることで、1年を通してバランスよく調査活動ができるのではないかと。

(回答)

貴重なご意見ありがとうございます。通年で環境調査を出来るものとのことですが、例年環境調査はFFJ環境調査報告書を作成しており、調査期間が春から夏となっております。ご理解・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

(2) FFJ検定委員会

1 ○FFJ検定ガイドラインの一部改訂について【宮城県連盟】

(提案理由)

FFJ検定は日々の活動全般について評価をする検定であると考えます。ガイドラインの上級位の基準では、県連の諸活動について役員などリーダーシップを発揮したクラブ員には取得しやすいメリットがあります。しかし、単位クラブの一般クラブ員が取得する場合、厳しい状況です。

指導性・社会性という項目では環境調査について評価する項目があります。社会性を養う活動には環境調査だけでなく、単位クラブの主催する交流活動やボランティア活動などもあります。こうした活動は地域において農業クラブ活動を評価してくれる大きな要因となっています。

こうしたことから、審査の項目に「社会性」を評価する項目のひとつとして、「単位クラブが行う交流活動やボランティア活動など」も評価する項目を設けてほしい。

(回答)

現在FFJ検定は、FFJ検定基準（FFJナビゲータ、FFJファイル参照）に沿って初級・中級は単位クラブで、上級は都道府県連盟で認定していただいております。特級だけが日連で審査し認定しています。FFJ検定ガイドラインをお示ししたのは、アグリマイスター顕彰制度においてFFJ検定が評価されるにあたり、今後FFJ検定の導入を検討している都道府県連盟から見本となる実施基準（実施見本）を示して欲しいという意見が多く寄せられたためお示ししたものです。FFJ検定ガイドラインは、現在の基準を変更するのではなく、現在の基準の範囲の中で実施例としてお示ししたものです。上級の実施機関は、県連盟ですので宮城県連盟で「社会性」を評価する項目に「単位クラブが行う交流活動やボランティア活動など」が必要と判断した場合、「社会性」を評価する項目として設けていただければと思います。

Ⅳ その他

1 ○リーダーシップの発行回数増加について【青森県連盟】

(提案理由)

現在、年に4回発刊されているが、発行回数が少なく、掲載される内容も限られている。そのため、発刊回数を年6回程度に増やし、全国のクラブ員の様子をなるべく取り上げてほしい。

(回答)

リーダーシップは以前、各月ごとに発刊(年間12冊)し、購入希望数を注文する形でクラブ員に届けられていました。しかし、希望購入のため、学校によっては注文しないなどがあり、採算の面や機関誌としての意味について検討されました。検討の結果、平成22年より「内容を精選した年間4冊の発刊」「クラブ員全員の購入」となり、現在に至っています。

年間6冊の発刊ではクラブ員の負担も増えてしまうことになり、また、以上のような経緯もあり、今後についても年4回の発刊で情報を提供していきたいと思っています。

2 ○多様化・多忙化する学校現場における、農業クラブ活動の活性化について【熊本県連盟】

(提案理由)

すべてのクラブ員を農業クラブ活動で活躍できるよう、積極的に取り組むべきである。また、指導者においても率先して農ク活動の充実を目指す必要があるが、現状としては、クラブ員の減少や学校現場の多様化・多忙化により、一部のクラブ員と、意識の高い少人数の指導者に、取り組みが偏る傾向がある。総合学科の学校や地方の小規模校など、充実した取り組みが行われている各単位クラブの実践例等をお聞きしたい。

(回答)

リーダーシップでは、全国大会に出場したプロジェクト活動や意見発表について、また各単位クラブの様々な農業クラブ活動を掲載しております。バックナンバーを利用するなどして指導にご活用ください。